

# 令和7年度 阿賀野市社会福祉協議会事業計画・収支予算

## 事業計画

### 基本理念

市民の主体的参加と協働により「お互いさま」といえる「共に生き共につくる福祉社会を目指すまちづくり」を推進します。

### 基本方針

国が進める地域共生社会とは「地域に暮らすすべての人びとがそれぞれに役割を持ちながら、ともに支え合い、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」とされています。

この地域共生社会の実現には、地域力の強化と包括的な支援体制の整備が不可欠となっています。私たちは、コロナ禍から再び日常を取り戻しつつある地域社会において、住民同士のつながりを回復させながら、以前よりもその関係性を強化できるように取り組んでいきます。

2024年1月に発生した「能登半島地震」や9月の「能登半島豪雨」により、能登地方は甚大な被害を受けました。阿賀野市においても過去の災害等を教訓としながら、引き続き災害ボランティア活動に対する住民への啓発活動をはじめ、役職員を対象にした災害ボランティアセンターの設置運営訓練など、平時から防災・減災に備え体制を整えながら、関係機関とのネットワークの構築をこれからも継続していきます。

お金の使い方や支払い、書類の書き方やお金の管理などで困っている、地域の権利擁護を必要とする方々の支援の充実を引き続き図ります。

通所介護事業では、3事業所において利用者へのサービス向上に努めながら、課題となっている赤字解消に鋭意取り組んでいるところです。

具体には、経費の削減に努める一方で、稼働率の向上を図るため、ケアマネジャーへ適宜アンケート調査を行い、相互の信頼関係を深めながら、利用者サービスの質の向上を目指し、新規利用者を確保していきます。

機能回復においては、リハビリソフトを用いて利用者1人ひとりに適した運動プログラムにより、無理のない機能訓練を行います。団体との連携では、外出レクリエーションやボランティア団体との交流会を定期的に開催し、利用者に笑顔ある楽しさを提供します。

また、利用者とその家族への施設の在り方については、引き続き、信頼と思いやりのもと求められるサービスが提供できるよう努めます。

児童発達支援センターは、発達の気になるお子さん、育てにくさを感じるお子さんやその家族への相談、また、それらのお子さんを預かる施設への援助・助言を行うなど、地域の療育支援の中核的な役割を担います。

現在、職員の育成のため一部事業を休止していますが、職員体制を整え、希望するお子さんに支援ができるように早期に再開を目指します。近隣の市と町を含めたセンターの圏域化については行政と情報を共有し、圏域化の可能性を注視していきます。

### 重点事項

1. 広く関係機関との連携を図り、生活困窮者への包括的・継続的な支援の強化
2. ボランティア活動の支援と人材育成
3. 災害ボランティア活動の啓発
4. 介護保険サービス、障害福祉サービスの充実
5. 児童発達支援センターの充実
6. 阿賀野市指定管理者制度事業の推進
  - (1) 阿賀野市デイサービスセンター
  - (2) 保健福祉センター「京和荘」(複合型施設)



## 収支予算

科 目		予 算 (円)	科 目		予 算 (円)
収 入	会費収入	4,013,000	支 出	人件費支出	334,419,000
	寄付金収入	49,000		事業費支出	84,069,000
	経常経費補助金収入	75,832,000		事務費支出	30,304,000
	受託金収入	39,728,000		就労支援事業費支出	4,126,000
	貸付事業収入	500,000		貸付事業支出	500,000
	事業収入	560,000		助成金支出	638,000
	介護保険事業収入	233,778,000		固定資産取得支出	0
	就労支援事業収入	4,126,000		ファイナンス・リース債務の返済支出	686,000
	障害福祉サービス等事業収入	99,203,000		積立資産支出	1,000
	その他の事業収入	88,000		その他の活動による支出	55,910,000
	受取利息配当金収入	12,000			
	その他の収入	258,000			
	その他の活動による収入	41,141,000			
	収 入 合 計	499,288,000			支 出 合 計
			当期資金収支差額	△ 11,365,000	